

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 19 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530813

研究課題名（和文） ドイツにおける中等社会系教科目の学力像に関する研究

研究課題名（英文） A Study of the Views on Scholastic Ability in Secondary Social Studies Education in Germany

研究代表者

服部 一秀 (HATTORI KAZUHIDE)

山梨大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：60238029

研究代表者の専門分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：社会科教育、地理・歴史・公民、学力、ドイツ、教育スタンダード、アビトゥーア、レアプラン

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、社会系教科教育の新たな改革の方向を探るため、ドイツの中等教育段階（前期中等教育段階・後期中等教育段階）における社会系教科目の主要な学力像を究明することである。

そのために本研究では、インプットとしてどのような内容を習得させよう目指しているかという視点だけでなく、アウトプットとして何ができることを学習者に対して求めているかという視点を重視する。

前期中等社会系教科目の学力像を究明するための主な分析対象は、各教科目の関連学会等による教育スタンダード、各州のレアプランなどである。後期中等社会系教科目の学力像を究明するための主な分析対象は、文部大臣会議(KMK)によるアビトゥーア試験統一基準、各州のレアプランなどである。本研究では、これらの分析を行い、ドイツの前期中等教育段階と後期中等教育段階における社会系教科目の学力像の特質や意義また課題を追究する。

本研究の開始に先立ち、既に平成 19 年度にドイツ地理学会による地理科の教育スタンダードを分析し、前期中等地理教育における主要な学力像について考察している。そこで、前期中等社会系教科目の学力像については歴・公の場合を中心に主として平成 20～21 年度に取り組むこととする。それらの考察結果を踏まえ、後期中等社会系教科目の学力像については主として平成 22～24 年度に取り組むこととする。

2. 研究の進捗状況

(1)前期中等社会系教科目の学力像の考察

前期中等社会系教科目の学力像については、主として平成 20～21 年度に取り組んだ。

平成 20 年度にはドイツ歴史教師協会による歴史科の教育スタンダードなどを分析し、前期中等歴史教育における主要な学力像について明らかにした（雑誌論文④、学会発表⑤）。また、平成 21 年度にはドイツ経済教育学会による経済教育の教育スタンダードなどを分析し、初等・前期中等経済教育における主要な学力像について明らかにした（雑誌論文③、学会発表④）。

なお、ドイツ地理教育学会の教育スタンダードに新たに課題例が付加されたことから、平成 22 年度にこの教育スタンダードの補足考察を行い、前期中等地理教育における主要な学力像について再検討した（学会発表②）。

(2)後期中等社会系教科目の学力像の考察
後期中等社会系教科目の学力像については、主として平成 22 年度から取り組んでいる。

平成 22 年度には地理科のアビトゥーア試験統一基準などを分析し、後期中等地理教育における主要な学力像について明らかにした（雑誌論文①、学会発表①）。また、この考察結果、及び、前期中等地理教育における主要な学力像に関する平成 19・22 年度の考察結果に基づき、前期後期中等地理教育における学力像について検討を行った。

なお、後期中等社会系教科目の学力像の考察を準備するため、平成 21～22 年度にはザクセン州職業ギムナジウムにおけるカリキュラム改革の分析検討を行った（雑誌論文②、学会発表③）。その成果を踏まえ、平成 23～24 年度には後期中等歴史教育と後期中等公民教育における主要な学力像の考察を行う

予定である。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

当初の研究計画に基づき、平成 20～21 年度の 2 カ年において、前期中等教育段階の歴史教育と公民教育(経済教育)における学力像の考察を行い、さらに平成 22 年から、後期中等教育段階の社会系教科教育における学力像の考察を本格的に開始することができた。

また、前期中等教育段階の地理教育における学力像についても、本研究開始前の平成 19 年度の考察結果を踏まえて補足考察を行うことができた。後期中等教育段階における社会系教科教育の学力像の考察を準備するため、ザクセン州でのカリキュラム改革についても分析検討を行うことができた。

各年度における考察の主要な成果については雑誌論文や学会発表において逐次報告してきている。

4. 今後の研究の推進方策

現時点において研究計画を変更することは考えていない。当初の研究計画に沿って、今後 2 カ年の研究を遂行する。

今後 2 カ年の主要課題は、後期中等教育段階における歴史教育の学力像と公民教育の学力像を明らかにすることである。平成 23 年度には後期中等歴史教育の学力像について考察し、平成 24 年度には後期中等公民教育の学力像について考察する予定である。

なお、今後、これまでの成果を踏まえ、個別の段階・教科目のレベルとともに、段階間のレベルや教科目間のレベルにも視野をひろげ、考察をすすめていく必要があると考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ①服部一秀、ドイツ後期中等地理教育の学力像—アビトゥーア試験統一基準(EPA)の評価枠組設定と評価問題設計から—、山梨大学教育人間科学部紀要、第 12 巻、2011 年、pp. 93-108、査読無し
- ②服部一秀、近現代史教育のカリキュラムレベルにおける質的変革の論理—ドイツ連邦共和国ザクセン州の場合—、社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』、第 22 号、2010 年、pp. 51-60、査読有り
- ③服部一秀、ドイツにおける経済教育の動向—ドイツ経済教育学会版教育スタンダードに焦点化して—、山梨大学教育人間科学

部紀要、第 11 巻、2010 年、pp. 99-114、査読無し

- ④服部一秀、ドイツ歴史教師協会版教育スタンダードの歴史学力像、山梨大学教育人間科学部紀要、第 10 巻、2009 年、pp. 92-108、査読無し

[学会発表] (計 5 件)

- ①服部一秀、ドイツ後期中等地理教育がねらうもの—アビトゥーア試験統一基準(EPA)から—、全国社会科教育学会第 59 回全国研究大会、2010 年 10 月 30 日、同志社大学
- ②服部一秀、ドイツ地理学会版教育スタンダードにおける課題例、日本地理教育学会第 60 回大会、2010 年 8 月 21 日、山梨大学
- ③服部一秀、近現代史教育改革の方向性—ドイツ連邦共和国ザクセン州の場合—、社会系教科教育学会第 21 回研究発表大会、2010 年 2 月 21 日、兵庫教育大学
- ④服部一秀、ドイツにおける経済教育の動向—ドイツ経済教育学会版教育スタンダード—、全国社会科教育学会第 58 回全国研究大会、2009 年 10 月 10 日、弘前大学
- ⑤服部一秀、ドイツ歴史教師協会(VGD)版「歴史」教育スタンダードモデルの構成、日本社会科教育学会第 58 回全国研究大会、2008 年 10 月 12 日、滋賀大学

[図書] (計 0 件)

[産業財産権] (計 0 件)

[その他]

http://erdb.yamanashi.ac.jp/rdb/A_Display.Scholar/1_3/C9CDBDA4A0EF7EF1.html